

成田空港のアクセス利便性向上へ

■圏央道や北千葉道路など整備進む

2029年3月末の第3滑走路の供用など「さらなる機能強化」を控える成田空港の周辺地域では、道路網の整備も進められている。成田空港で新たに整備が計画されている「東側貨物地区」に隣接する、圏央道の大栄ジャンクション（JCT）—松尾横芝インターチェンジ（IC）間は2026年度の開通が見込まれている。そのうちの一部区間は前倒しでの開通も計画されている。成田空港と都心を結ぶ国道464号北千葉道路の整備も順次、実施されている。成田空港のアクセス利便性が向上し、物流面での効果にも期待が寄せられている。

関東地方整備局によると、圏央道（首都圏中央連絡自動車道）は、首都圏の幹線道路の骨格となる3環状9放射の道路ネットワークを形成。都心から半径40～60キロの位置に計画された総延長約300キロの環状の高規格幹線道路だ。2017年2月には茨城県区間が全線開通し、圏央道全体（約300キロ）の約9割が接続した。

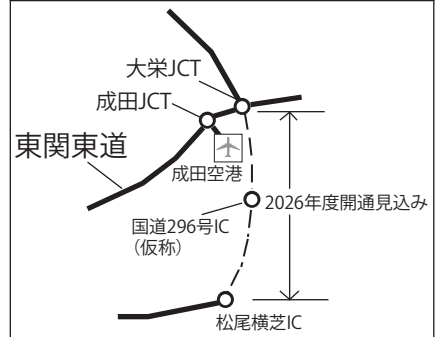
関東地方整備局は、未開通区間の整備によるネットワーク効果の「早期発現」に向けて調査設計、用地買収、改良工事、橋梁上部工事およびトンネル工事を実施する。24年度予算として299億円を計上している。さらに財政投融資を活用して久喜白岡JCT—大栄JCTの4車線化事業、未開通区間の大栄JCT—松尾横芝ICの整備事業を実施している。大栄JCT—松尾横芝ICの整備に関しては、中間地点に位置する国道296号IC（仮称）と

大栄JCTを結ぶ区間について1年程度前倒しの開通を目指している。

成田空港はB滑走路延長、第3滑走路供用開始といった「さらなる強化」に伴い、貨物施設や旅客ターミナルビルの再編が計画されている。第3滑走路の北側の区画（空港の東側に位置）に新たな貨物施設が整備される計画がある。新貨物施設は圏央道の大栄JCT—松尾横芝ICに隣接する立地のため、成田空港の貨物機能強化の観点からも、圏央道の重要性が高まっている。

関東地方整備局は、圏央道の整備によって、都心部への交通の適切な分散が図られ、首都圏全体の道路交通の円滑化につながるとしている。さらに圏央道沿線で企業立地が進み、雇用や税収増加といった効果が現れているという。物流効率化などで企業活動の生産性が向上することも効

圏央道・大栄JCT—松尾横芝ICの整備概略図



果の一つにあげている。

都心と成田空港を結ぶ最短ルートを形成する道路の一部区間となる国道464号北千葉道路（市川・松戸）の整備に関して、関東地方整備局は24年度予算で9億円を計上した。関東地方整備局によると、同事業により、国道464号の渋滞緩和などの効果が見込まれるという。

国道464号北千葉道路（市川・松戸）は千葉縣市川市堀之内から同市大町までの延長3.5キロの道路で、24年度は調査設計を実施する予定だ。北千葉道路が全線整備されれば、成田空港と都心方面を結ぶ輸送の安定性が向上するなどの効果が期待される。併せて国道464号から東京外かく環状道路への最短経路が整備されることで、首都圏と各方面とのアクセスが向上。企業誘致が進む効果も見込まれるという。